

サポセン mail

No.200. 2021.6.20 発行

<発行元> 特定非営利活動法人 緑区子どもサポートセンター
千葉市緑区誉田町2-21-684-101 TEL&FAX 043-377-8490
E-MAIL:kids-support-midori@coffee.ocn.ne.jp
URL:http://saposen.konjiki.jp/

天然酵母でおいしいパン作り！



4月11日(日) 誉田公民館調理室で「天然酵母から作るパン作り」を開催しました。この企画はもともと「以前作ったパン作りのパンがすごくおいしかった。ぜひもう一回、作り方を教えてほしい。」というお母さん方の声から決まった企画だったので、9時からの準備の段階から参加するお母さん方がたくさんいました。

今回の講師の長管さんに美味しいパンを作りの秘訣をいくつか教えてもらいました。

まず長管さんが大切にしていることは、材料だそうです。

小麦粉は国産のもの、砂糖は白砂糖ではなくミネラルの多いてんさい糖、バターは四つ葉バター、卵も大安売りで1パック100円などのものは避けます。工場のなようなところでほとんど動けず、卵だけを産み続け産卵率が悪くなると処分される鶏の卵は心配です。美味しくて、栄養が十分にあり安心なものを使うことがおいしいパン作りには欠かせないことで、風味や香りが違ってきます。この日使った白神こだま酵母は、ぬるま湯を入れるだけで短時間で発酵してくれるのでとても便利です。



材料を測り終わったら、長管さんが持参したマシンでパン生地を捏ねます。マシンが生地全体を力強く捏ねていきます。手で混ぜ合わせ、捏ねていくのはかなりの重労働ですが、マシ



ーンが一気に捏ね上げてくれます。かずきくんはこのマシーンに興味津々です。夢中になってマシーンの動きを見つめていました。次々と捏ねあがったパンの生地をボールに入れて、オーブンで1次発酵です。しばらく時間がかかるので、ここでお昼休憩に入りました。



1次発酵が終わった生地をオーブンから出してみると生地はまるで赤ちゃんの肌みたいにしっとりぷにょぷにょになっていました。触っているだけで本当に気持ちいい。そしてぐっと押してみるとぷくっと膨らむところがあります。生地の中にガスがたまっているのです。この生地の中にたまったガスを手で押して抜いてあげることもおいしいパンを作る秘訣だそうです。



1時発酵が終わったら、今度は成型です。今日はクリームパン用のクリームやメロンパンの材料があり、作り方の説明を聞きました。みんな真剣に話を聞いていました。クリームパンのクリームは一人分ずつラップの中に用意しパン生地の中に包み込むことにしました。



メロンパンやクリームパンが人気でしたが、自宅からソーセージなどを準備してきてパン生地を巻き付けている子もいました。

てんかいくんは初めから電車を作りたいという自



分のイメージがはっきりしていて、ココア味の生地を練っていました。細かい細部まで集中して作りあげていました。



こうすけくんは今年も作りたいキャラクターがはっきり決まっています。イカの形にして、赤い体にするためケチャップも持参していました。ただのイカではなくゲームのキャラクターらしく、みちかちゃんが名前を教えてくださいました。(写真がなくてごめんなさい!)



パンの形を整えたら、このまま2次発酵です。オーブンの鉄板は人数の半分ぐらいしかないので、順番待ちです。鉄板以外の上で作っておきたいところですが、形を整えてからの2次発酵中は移動したり動かさないほうがいいようです。2次発酵が終わったら表面に卵を塗って、オーブンで焼きました。部屋中にパンの焼けるいい香りが広がりました。



今回は中学生以上も参加OKとしたので、中学1年生になったれいちゃん・みちかちゃん、中2になったかやちゃん、二十歳になったことのちゃん、ひなたちゃんが参加してくれました。みんなあそび塾や中学生グループで活動していた子たちですが、今では子どもたちの面倒をみたり、進んで片付けをしてくれたり、頼れるお姉さんになっていました。今でも当時のことを忘れずに話してくれて、とても嬉しかったです。



わくわくドキドキする気持ちは 遊ばないと育たない！



3月28日（日）。昨年12月に予定していた「アフタフバーバンと遊ぼう！」が延期となり、約1年半ぶりのアフタフバーバンです。今日はいつもと違いきょんちゃんのマンドリン(?)と歌・りっちゃんの踊りでスタートです。アフタフバーバンに初参加という子は一人だけで、大人スタッフもこの日の10時半から1時間以上体を使って遊びきっていたので、みんなの気持ちがすぐに盛り上がっていくのが感じられました。踊りまくるりっちゃんにつられてみんなの心が「パン！」って音を立てて弾けていくようでした。



初めはみんなで鬼ごっこをしたり、海が好きチーム・山が好きチームに分かれてお互いに山のもの・海のことを体で表現して相手チームがそれを当てたりしました。山チームのキノコは分かりやすかったのですが、海チームの刺身はなかなか分かりませんでしたね。



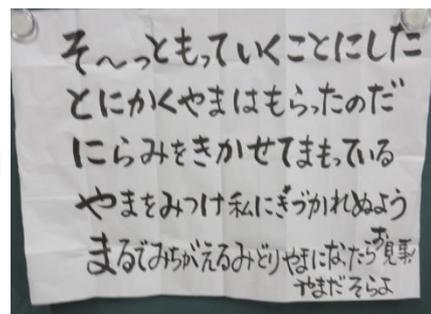
ここで二人が舞台の幕を開けて「山」を見せてくれました。子どもたちから「ちっさあ〜い！」と思わず声があがります。段ボールにガムテープを張り巡らしたお手製の山ですが草も何も生えていないハゲ山です。「部屋の中のいろんなところに葉っぱがあるよ！」との言葉を聞き、子どもたちが部屋中を走り回り「あった！」「見つけたよ！」「ここにもあった！」と言



い山が少しずつ緑になっていきます。ところが、外にも葉っぱを探しに行ったほんの少しの間に山がなくなってしまいました。



そして、「挑戦状」が置かれていました。そこには「やまだそらよ」さん（推定92歳）からの手紙が入っていました。これを読んだ子どもたちから「頭文字だ！」
そ・と・に・や・ま だあ〜！」と思わず何も聞かずに外に飛び出す男の子たち。



きょんちゃんからやまだそらよさんに見つからないためには、何かに変身していればいいことを聞き冷静に行動する女の子たち。同じ年齢でも本当に違い

ますね。



外に出ると山を発見。みんなで葉っぱや草を貼り付けてハゲ山が少しずつ緑の山になっていきました。そこになんと「やまだそらよ」らしきおばあさんが登場。この写真だけではお伝え出来ないと思いますが、腰が曲がった熊本弁のおばあさんのなんとリアルなことか！山を守ろうと熊本弁でしゃべりながら、おばあさんは周りをうろろと歩き回っています。みんなは木になったりお地蔵さんになったりして見つからないようにしています。



ときみつくんは何やらおばあさんに話しかけていましたが、おばあさんに「一緒に行くかい？」と言われると「いえ、結構です。」と走っていきました。

ハゲ山はすっかり緑でいっぱいになり、みんなで自治会館に持ち帰りました。山が緑でいっぱいになったのでなんだかみんな満足そうです。

みんなで集まっていると、まだまだ「やまだそらよ」さんが登場。みんなで慌ててお地蔵さんになります。ハゲ山だったお山が緑でいっぱいになり、おばあさんはとても感激し、お礼を言いました。



そして雲作りキット（新聞紙）を置いて行ってくれました。

おばあさんが帰っていくと、子どもが「そういえば、りっちゃんどうしたんだろう？」と言います。そうか、「やまだそらよ」というおばあさんは子どもにとってりっちゃんとは別人なのですね。そして、りっちゃんが戻ってくるとおばあさんが来たことなどを報告していました。「あそび」のストーリーに入り込んでいるのですね。



2か月分の新聞紙をちぎって部屋中がいっぱいになりました。コロナですっと我慢していたパワーがみんなからあふれ出ているようでした。男の子も女の子も夢中で、いつも冷静で落ち着いているしょうたくんも笑顔がはじけていました。



ちぎった新聞紙を白いビニール袋に詰めて雲が出来上がり！今度は大人対子どもで投げ合いです。「おもしろい！」って、こういうことですね。最後は山の周りを雲海で囲み記念撮影。



くたくたになって遊ぶって本当に気持ちいいよ！

最後に子どもたちに感想を聞いてみました。



- 今日は久しぶりに沢山遊べて楽しかった。
- 久しぶりにアフタフバーバンに会えて嬉しかった。
- まくら投げ（雲投げ）が楽しかった。
- 個性的な人たちと初めての体験ができた。
- おばあさんが楽しかった。
- 今日はいろんなことができた。○雲投げが楽しかった。

子どもたちの「久しぶりに」という言葉に普段の我慢が感じられました。いつもは「〇〇していい？」ばかり言うのに今日は思いきりやりたいことをやっていた。というお母さんからの感想もありました。本当に楽しい時間でした。

